



佐川美術館
アートコラム 34

花は野にあるように

佐川美術館
学芸員・松山早紀子



「利休七則」をご存知でしょうか。

「利休七則」とは、桃山時代に茶の湯の道として大成させた千利休が遺した言葉で、お茶の基本の心構えである「おもてなし」について記した七つの心得。「茶は服のよきよつ」「炭は湯の沸くよつ」「夏は涼しく冬は暖かに」「花は野にあるよつ」「刻限は早めに」「降らずとも雨の用意」「相客に心せよ」を言います。

この言葉は、千利休がある弟子から「茶の湯とはどのようなものですか」とたずねられたときの答えでした。そのとき弟子は「それくらいのことなら私もよく知っています」と言います。利休は「も！これができたら、私はあなたの弟子になりますよ」と言ったそうです。知っていることとできることは別次元。知っていても、行動を伴うと、なかなかできない難しいことなのです。

佐川美術館では、お茶席にはもちろんのこと、楽吉左衛門館の展示室にも、毎日おもてなしの心で竹花入に花を飾っています。特別な竹ではありませんが、節の位置や径が適当なものを見繕って選んでいます。

花は美術館の庭で育てている山野草を「花は野にあるよつ」といって利休の教えを想いながら生けています。

「野にあるよつ」とは、その花が野に咲いていた状態「ののまま」を再現するのではなく、たとえ一輪でも野原を想起させ、その花の命を尊び、美しく咲いていた状態を感じさせるよつ。「ののまま」に生けるよつを促しています。

ものの本質を知り、より簡潔に表現することが大切だついでにを教えられる。

※開館情報につきましては、来館前にホームページでご確認いただくか、電話(☎585)7800)で問い合わせください。

近江守山ライオンズクラブ 献血活動で 献血100万mlを達成!!

5月23日に、34年連続で年間目標の献血100万mlを達成しました。これからも皆さまの献血へのご協力をお願いします。



近江守山ライオンズクラブ
☎(582)3594 ☎(582)0050

献血へのご協力をお願いします



新型コロナウイルス感染症の影響で献血会場の確保が困難となり、それに伴い献血協力者の深刻な減少が続いています。

そのような状況下でも、国内では、毎日約3,000人の患者さんが輸血を必要としています。



日々必要な輸血用血液を安定的に医療機関に届けるために、市民の皆さまの継続的な献血へのご協力をよろしくお願いします。

関すこやか生活課 ☎・☎(581)0201 ☎(581)1628

(広報もりやまは 右記施設に設置) 市役所、各地区会館、JR守山駅(駅前総合案内所)、図書館、すこやかセンター、市内金融機関、市内郵便局、市内平和堂各店とアルプラザ栗東、丸善守山店、市内セブンイレブン(一部店舗)などに設置しています。スマートフォンアプリでもご覧いただけます。

マチイロ
ここからアクセス

「マチイロ」アプリをインストール

ちいき本棚
ここからアクセス

「Sidebooks」アプリをインストールし、「ちいき本棚」を選択

守山ニュース 「守山ニュース」びわ湖放送 毎月第1・3金曜日放送中

「琵琶湖から生まれる奇跡。もりやま琵琶湖パール」(再放送)
6月19日(金) 18:55~19:00
「市制施行50周年(仮)」
7月3日(金) 18:55~19:00

※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。
※アプリの閲覧中に広告が表示されますが、その内容に守山市は責任を負いません。

